

平成29年11月9日

第3種郵便物認可

終活 シニア73%前向き

シニアの73・6%が人生の最期に向けて準備する「終活」に前向き。インターネット調査会社「マクロミル」（東京）が60～70代を対象に実施したアンケートでこんな結果が出た。終活に前向きな理由は「家族に迷惑を掛けたくない」が70・7%を占め、担当者は「実際に死に直面していない場合でも、お金の準備を考えるなど、終活への関心が急速に高まっている」と分析している。

調査は2016年11月、60～79歳の男女千人を対象にネットで実施した。

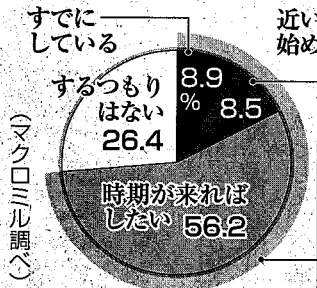
終活を「すでにしている」は8・9%、「近いうちに始める予定」が8・5%、「時期が来ればしたい」が56・2%で計73・6%が前向き。「するつもりはない」の26・4%を大きく上回った。「終活」という言葉を「知っている」は79・5%で、「聞いたことはあるが意味はよく分からない」が13・5%、「知らない」が7・0%だった。

終活に前向きな回答をした人に理由を複数回答で聞くと、最多が「家族への迷

「終活」の実施状況

終活に前向き

計73・6%



ネット調査 「家族に迷惑掛けたくない」7割

「感」で、「寝たきりになった場合に備えて」(40・4%)、「人生の終わり方は自分で決めたい」(31・5%)、「今後の人生をよりよく生きたい」(20・2%)が続いた。

終活の主な内容は、身の回りのものを片付ける「生前整理」▽葬儀費用などお金の準備▽終末期の医療や介護の希望をまとめる▽相続の準備▽携帯電話やパソコンのデータ整理などだった。

人生でやり残していることがあると答えた人は59・5%。内容を自由記述で尋ねたところ、旅行が目立ったほか、「子どもの結婚」や「孫の成長を見届けたい」など子どもや孫に関することも多かった。

最期をよりよく

認定NPO法人エンディングセンターの井上治代理事長の話 同居が当たり前だった時代は家族が死後のこともやってくれたが、同居の高齢者が増えたことで、自分で決めて準備しておくなければならなくなり、終活に対する関心が高まっている。配偶者などの介護を経験し、子どもには同じような思いをさせたくないという「親の愛」でもある。死という暗いイメージがあるが、終活は死を見つめることよって最期をよりよく過ごすための前向きな作業だ。